

コーヒーブレイク

くすりのなまえ

第36回 副作用としての抗コリン作用

副作用とはくすりの主作用とは異なる作用のことを言います。経験があるかも知れませんが、花粉症などのアレルギーのくすりを飲んだ時に、眠気が出る場合があります。この眠気は、アレルギー（鼻水、くしゃみなど）を止める作用とは異なる作用ですので、副作用にあてはまります。（余談ですが、アレルギーのくすりの副作用を主作用とした睡眠導入剤のドリエルといった市販薬もあります）

今回取り上げる、抗コリン作用はさまざまなくすりが副作用として持っているため、注意が必要な副作用の一つになっています。抗コリンの副作用がある物は次のような種類の薬があります。

不整脈薬	抗ヒスタミン薬	睡眠薬	抗うつ薬	抗精神病薬
感冒薬	頻尿・失禁用薬	酔い止め薬		

上記に上げた薬の種類はあてはまる全ての薬が持つわけではなく、一部の薬の場合がほとんどで、抗コリン作用も一つ一つの薬によって強弱があるのですが、比較的広く使われるくすりが抗コリン作用を持っていることが分かっていただけでしょ

抗コリン系の副作用は以下のようなものがあります。

中枢性	記憶障害、せん妄、幻覚、失見当識 など
循環器	頻脈、動悸、不整脈、めまい など
泌尿器	排尿障害、尿閉 など
眼科	眼圧上昇、眼の乾燥 など
消化器	口渇、唾液・消化液分泌抑制、便秘 など
その他	発汗抑制 など

抗ヒスタミン薬（花粉症などのアレルギーの薬）や市販の酔い止めを飲んで、普段よりも口が渇いたというような経験はないでしょうか。その場合は、内服薬の抗コリン作用が関与している可能性が大きいです。健康な人が少く上記の副作用が出て問題にならないことが多いのですが、前立腺肥大などで排尿障害のある方や緑内障、腸管閉塞や消化管運動の低下している人は悪化の可能性があるので注意が必要です。また、高齢の方では中枢性の副作用が問題となることがあり、記憶障害や不安、せん妄などの出現は抗コリン作用を持つ薬に原因がある場合があります。あまり知られていないところでは、発汗抑制を起こすため、高温や夏場でうまく体温放出ができず熱中症などの危険があります。特に温度をうまくコントロールできない子供で注意が必要です。

今回は、ステロイド塗り薬についてです。